

2019 年度
事業計画書

2019 年 4 月 1 日から
2020 年 3 月 31 日まで



公益財団法人 日本科学技術振興財団

目 次

総合活動

I. 役員会等	1
---------	---

事業活動

I. 科学技術館の運営事業	3
II. 他館の運営管理事業	7
III. 他館に対する活動支援事業	10
IV. 科学技術系人材の育成事業	11
V. 科学技術の普及啓発事業	12
VI. 科学技術の振興に関する調査研究事業	13
VII. 科学技術の研究開発とその促進事業	13
VIII. 情報システムの設計開発と運用サービス事業	13
IX. 科学技術館施設の利用促進事業	14
X. 補助を得て実施する事業	15
XI. 助成を得て実施する事業	15

I. 役員会等

1. 会議の開催

- (1) 理事会の開催
- (2) 評議員会の開催
- (3) 常勤理事会の開催

2. 対外機関との連携活動

(1) 北の丸科学技術振興会

公益財団法人日本科学技術振興財団への移行にあわせ、賛助員制度を発展的に解消し「北の丸科学技術振興会」を立ち上げています。「北の丸科学技術振興会」は、企業、研究機関等との連携を強化し、わが国の科学技術の振興に貢献することを目指します。

(2) 各種外部企業・団体との連携活動

企業・団体との各種連携活動を強化します。

3. 組織

財団の諸事業と組織が効率的に事業を推進させるため、柔軟に組織の変更ができるよう体制を整えます。

(1) 各部との事業連携・人材育成

財団職員のレベルアップを図り、より効率的・効果的な事業展開を行うために、職員研修、科学技術館業務報告会等、財団職員の育成強化を図ります。

(2) 公益目的事業に沿った組織と区分の検討

公益目的事業の実質的な体制の変化に伴い、公益目的事業の区分を含めた、組織の見直しを図ります。

4. 広報活動

財団全体に関わる各種広報活動を推進します。

(1) 財団広報活動

これまでの広報活動を見直し、効率的かつ効果的な手法を計画して確立し、さらなる充実に努めます。

(2) 財団広報誌「JSF Today」の制作・発行

財団の諸活動に対して深くご理解いただくために、広報誌を年4回発行します。

(3) 「科学技術館メールマガジン」等のネットによる情報発信の充実

科学技術館で行うイベント・展示の紹介、財団が行う科学技術理解増進活動の参加募集など、科学技術館並びに財団活動の到着情報を、毎週水曜日にメールマガジンの形式で配信します。また、イベント開催等のリアルタイムの情報を Twitter により一般の方々に発信します。その他、ホームページや SNS 等の適切な手法を用いて情報発信を充実させます。

(4) 国際化対応や IT 活用の拡充に基づく広報活動の展開

東京オリンピック・パラリンピックが開催される 2020 年度も鑑みて財団全体で国際化対応や IT 活用の拡充を考慮し、それに基づく広報活動の展開を目指します。

[事業活動]

I. 科学技術館の運営事業（474百万円）

主として次代を担う青少年、そして親子連れ、家族連れを対象に、実際に見て触れて試すことで楽しみながら理解に近づく体験型の展示手法を用い、好奇心・探究心・創造性を育みつつ科学技術・産業技術の振興と理解増進に繋がる情報・知識の普及啓発活動を展開します。また、目標を持った継続・反復となる活動を展開する「サイエンス友の会」の活動充実を図るとともに、効果的な期間に特別展を開催するなど機会をとらえた事業活動を行います。

1. 科学技術館の常設展示の運営

(1) 展示室の運営

①展示室および展示の保守・管理

来館者が安全・快適に見学でき、当館見学の目的をより良く達成することができるよう、常に展示および設備の保守・点検・修理・改善等の整備を実施し、展示空間の環境向上に努めます。

②展示の解説および実演

約20の常設展示室およびコーナーにおいて、スタッフによる展示解説を行うとともに、毎日40回以上の実験演示プログラムを実施します。

③入館者の安全管理

館内での事故・怪我・病人の発生、また災害時や緊急時には、来館者の応急処置・救急車の要請等の必要な対応を適切に行います。

④多言語化

外国人来館者に向けた情報発信を、館内サインやウェブページ、リーフレットで行います。

(2) 広報活動

①ウェブページ等による広報活動

常設展示・特別展・館内で開催する各種イベント等について、ウェブページやメールマガジンにより常に最新の情報を発信します。

②ステークホルダーと連携した広報活動の展開

科学技術館の展示や各種イベントを、多くのステークホルダーとの連携により計画実行していくにあたり、ステークホルダーが有する広報チャンネルにも展開させていただくことで、当財団・科学技術館単独で行う以上の範囲と対象者への広報活動を行います。

③入館者誘致活動

- 1) 団体来館者のデータから履歴や利用状況を分析し、継続的な利用や新たな来館への誘致に繋がる営業活動を計画検討します。
- 2) 学校団体の利用クオリティの向上に繋がる展示に関する情報の提供を図ります。

(3) 学芸活動

①インターシップの受入

インターンシップ生の受け入れを計画します。

(4) 館内施設の活用

実験工房・実験スタジアム L・イベントホールをはじめ、回廊部壁面を利用したギャラリー展示など館内施設を有効に活用して、ステークホルダーと連携したイベント等の展開を図ります。

(5) 連携・交流事業

①博物館連携活動

日本博物館協会、全国科学博物館協議会、全国科学館連携協議会、東京都博物館協議会などの組織を通じて、全国の博物館をはじめ、特に理工系博物館との連携を深めるとともに、各種会議、研修会等に参加出席し、情報交換と職員の資質向上を図ります。また、機会を利用して海外の博物館との積極的な交流を図ります。

②地域との連携事業

千代田区や千代田区ミュージアム連絡会加盟の社会教育施設・団体と連携し、地域活動に貢献します。

③企業との連携事業

1) イベントの開催

社会貢献事業を積極的に展開する企業に働きかけ、各社事業の特徴に相応した CSR プログラムの新規共同開発や、話題性・新規性のある教室やイベント等を企画開催します。具体的には、東レ株式会社「ろ過で地球の水について考えよう」・「せんいの不思議」、キヤノン株式会社「光のじっけん室」、ポッカサッポロフード&ビバレッジ株式会社「レモンのチカラ」、中外製薬株式会社「細胞の観察と DNA の抽出実験」、日本アイ・ビー・エム株式会社「TryScience 実験教室」等を実施するほか、新規連携先の開拓を図ります。

2. サイエンス友の会の活動

小学校3年生から高校生までを対象とした1年間の会員制による科学・技術教室を実施します。活動は、おもに「実験教室」「工作教室」「自然体験教室」「施設見学会」等で、単に科学や技術の知識を身につけるだけでなく、多くの体験を基に自ら探究し挑戦する意志や意欲を高めることを大切な目標とするとともに、行事を通じた家族間のコミュニケーションも図ります。年間 250 程度の教室、延べ 5,000 名ほどの参加を計画します。

3. 特別展・イベント等の開催

春休みや夏休みなど学校休暇期間に開催する特別展を中心に、科学や技術を通じたものの見方の醸成やものづくり体験を企画実施し、多くの方が科学・技術について考え・親しむことのできる機会の創出

を図ります。

(1) 特別展

①2019年春休みイベント「知れば知るほど深くなる!? もっと知りたい! うみのこと」

(公益財団法人 日本海事科学振興財団助成事業)

2017年に開催した特別展「たからのうみ と うみのたから」への来場者が書いた「もっと知りたい! うみのこと (何を知りたいか)」で回答が多かった「海」に対する素朴な疑問に呼応して、科学技術館のもつ「見て・触って・からだ全体を使って体感し、自分の知識や興味に応じて楽しみながら科学と技術に興味・関心を深める」という特徴を生かし、「海」の科学的側面、「海」を知るための技術、「海」を利用する叡智等、多方面から人と海の間わりについて、学び、考える場を提供します。

会期：2019年3月21日～5月6日

②2019年夏休みイベント

「映像技術で魅せる科学技術 ～サイエンスビジュアライゼーションの世界～ (仮称)」

小中学校の夏休み期間中に、研究機関や大学、企業等の研究開発成果の可視化データをAR等のデジタル映像プレゼンテーション技術を使って展示し、コンテンツの一部は様々なプレゼンテーション用の機器を使ってデモンストレーションを行い、ARやプロジェクションマッピング等のデジタル映像プレゼンテーション技術を使った実験展示、体験型展示を設置し、これらをテーマとした講演や実験ショー、工作教室、ものづくり体験等のプログラムを開催します。

会期：2019年夏休み期間 (予定)

③2020年春休みイベント「スプリング・サイエンス・カーニバル (仮称)」

小中学校の春休み期間中に、館内で開催されるさまざまなイベントを束ね、実験や工作を楽しめる教室等を多彩に開催します。

会期：2020年春休み (予定)

④2020年度春休み特別展「光を学ぼう」(公益財団法人 日本財団助成事業)

「光」を総合的に学習する巡回型展示物を制作し、春休みにミニ特別展を開催します。本事業は来年度と合せ2か年計画の予定です。

会期：2020年春休み (1週間程度、予定)

(2) イベント

①「ものづくり体験 たたら製鉄」

ものづくり体験関連イベントとして開催します。

会期：2019年11月 (予定)

共催：一般社団法人 日本鉄鋼連盟

②「ワクエコ・カーモデラー教室」

自動車展示室「ワクエコ・モーターランド」において、プロのカーモデラーの指導により工業用ク

レイを使ったカーモデル造作教室を行います。

会期：2020年3月（予定）

主催：日本カーモデラー協会、一般社団法人 日本自動車工業会

③FORESTイベント

当館5階FORESTの来場者を対象に、身近なものを使った簡単な工作や、気軽に楽しめる参加型イベントなど、年間を通じて複数回実施します。

④理研DAY

国立研究開発法人理化学研究所（理研）の現役研究者に登壇いただき、研究の話はもとより趣味や好きな本・映画などの話題を通じて科学者・研究者と来館者が直接対話することのできるコミュニケーションイベントを理研との連携により毎月1回開催します。

⑤「夢・化学-21」わくわく理科実験教室

主に小学生を対象とする実験や工作・観察を通じて、化学の面白さや不思議さを体験してもらう教室を主催者と連携して年間を通じて6回程度開催します。

主催：「夢・化学-21」委員会

4. アウトリーチ活動

科学技術館の運営を通じて蓄積された教育プログラムや実験演示の企画開発力や実施のためのノウハウを、全国の科学館・各種イベント等において展開実施します。

(1) 出張実験実演・実演支援

ステークホルダーが関係しているイベント等に向けて、教育プログラムや実験演示、工作教室等を開発したり、当館スタッフを派遣しての教育指導や実施運営等を要望に応じて行います。

(2) 巡回展示物の貸出し

①本年度は「ラ・ビレット展」、「地球環境展」、「マグネット展」、「スポーツを科学する」、「感覚・体感フィールド」、「科学捜査展」、「はかるのヒ・ミ・ツ展」、「究める！マグネット展」、「科学捜査展 井SEASON2」、「マスレチック・ランド」、「科学戦隊実験ジャー」の11アイテムを巡回展示物として積極的な貸し出しを行います。貸出先のニーズに対して様々な提案を行いながら、科学館、博物館はもとより、展示面積が狭い児童館や公民館、学校等でも利用できるように運用計画を作成しています。

②付加価値を高めるために科学実験ショーや、ワークショップ、工作などのソフト面での提供も含めて巡回事業を実施します。

5. 展示の新設、更新、実験体験プログラム開発など

科学技術の進歩や産業構造の変遷等を捉え、時代の変化と求めに呼応した情報提供や新しい技術を活用した展示を世に送り出すため、展示・展示室の新設・更新を行います。また、同様の目的をもって実

験体験プログラム等の企画・開発を行い、常設展示内の実験演示や特別展やイベントで活用します。

(1) 展示新設

①最新リアルCGによる近未来移動体 操縦体験装置整備（一般財団法人日本宝くじ協会助成事業）

常設展示室「ワクエコ・モーターランド」近くのロビーに、近未来のクルマ操縦体験装置を設置し、クルマおよびConnected Car 社会に対する興味関心を高め、未来を創る人材を育成することを目指します。

(2) プログラム開発

①展示室で実施しているワークショッププログラムの改善

「FOREST ワークス」「建設館」「鉄の丸公園1丁目」「DENKI FACTORY」「実験スタジアム」「アトミックステーション ジオ・ラボ」「クスリウム」「ワクエコ・モーターランド」「ものづくりの部屋」など常設展示室で実施している実験・ワークショッププログラムについて、社会の話題や情報ニーズに応じたコンテンツの加除を行なうとともに、来館者の体験クオリティを担保するためのチェック等を適宜実施します。

II. 他館の運営管理事業（255百万円）

科学技術館の運営経験を基に、科学館、博物館等の教育文化施設の運営を行うことにより、科学・技術への興味関心の拡大ならびに知識の普及啓発に貢献します。

1. 所沢航空発祥記念館の運営（埼玉県委託事業）

わが国初の飛行場として1911年に開設された「所沢飛行場」は、現在、所沢航空記念公園として整備されています。所沢航空発祥記念館は、同公園内に「日本の航空発祥の地」を記念した航空博物館として1993年に埼玉県によって設立されました。館の建設にあたり当財団は展示の構想にはじまり、展示設計・施工監理等に関わり、その後25年間運営に携わっています。現在は、公益財団法人埼玉県公園緑地協会、一般社団法人埼玉県造園業協会とともに3者で共同企業体を組織し、埼玉県指定管理者として運営事業を推進しています。

(1) 展示館の運営

①安全を第一に日常の入館者対応、展示解説・実演等を行なうとともに、展示物の適切な保守・管理を行うことで、館運営を滞りなく実施します。

②開館から25年以上経過した展示ハード及びソフトコンテンツに対する適切な見直しを実施し、予算の有効かつ適正な配分により可能な更新や修繕を行います。

③埼玉県との連携のもと展示館内の実機展示レイアウト変更・機体ローテーションを計画・実施するとともに、県により吊下げ実機設備交換工事が実施される場合に協働します。

④航空に係る資料の調査・収集・保存活動を行い、展示や教育普及活動への効果的な活用を図ります。

(2) 大型映像館の運営

- ①展示館とならんで所沢航空発祥記念館の特長である大型映像館について、安全を第一に日常の運営活動を滞りなく実施します。
- ②上映するコンテンツには航空博物館としてのテーマを盛り込むだけでなく、より多くの幅広い来館者に向けた多彩かつ多様な興味に応える作品の上映を計画します。
- ③館の設立趣旨と大型映像館の機能を活かすとともに、当財団の事業との効果的な連携を実現することを目的に科学技術映像祭入選作品の上映会を開催します。

(3) 特別展の開催

館の設立趣旨に則るとともに、常設展示に係る分野を深掘りしたり、時流に合わせた新しく話題性のあるテーマをとりあげたりする特別展を開催することで、来館者の興味関心の喚起や拡大をねらうとともに、併せて広報周知の機会として活用し、館の認知度の向上を図ります。

- ①2019年に計画されるフランス航空教育団来日100周年記念事業に協力するとともに、関連した館独自の話題性のある企画を実施します。
- ②航空に関係する分野の企業等との共同催事の実施を通して話題の提供及び興味関心の拡大を図ります。

(4) 施設の運営保守と安全管理の徹底

- ①展示はもとより、日常の館建屋・設備・機器等の保守、営繕、管理を滞りなく実施するとともに、運営に関わる広い分野の安全管理を徹底します。
- ②各方面のバリア低減を実現することで、未就学児、高齢者、障害者、外国人をはじめ、全ての入館者が安心して展示を楽しむことのできる館内の環境整備に努めます。
- ③安全を最優先にした館内各所への緩衝材の貼付をはじめ、各種サイン掲示による事故の未然防止の呼びかけ、防犯カメラの設置、警備員による定期巡回、機械警備の実施等、安全管理に努めます。
- ④年2回の消防訓練と実行動につながるスタッフへの教育と情報共有を実施します。

(5) 連携活動

- ①埼玉県、所沢市をはじめとする周辺の自治体・団体・企業等との連携活動を積極的に行います。
- ②埼玉県博物館連絡協議会、全国科学博物館協議会、全国科学館連携協議会、日本ジャイアントスクリーン協会に引き続き加盟し、他館との連携や情報交換、また研修等に参加することで、館活動の活性充実とスタッフの能力・資質の向上を図ります。
- ③国内外の航空博物館等との関係を深め、情報交換にはじまり、展示物・収蔵資料の館間貸借等にもつなげるほか、連携をもととした特別展を開催するなどの活動を行なうことで、航空博物館への社会的認知を高めるとともに、相互の質的向上を図ります。

(6) 柔軟で弾力的な運営への取り組み

各種の割引対応や年間パスポート等の発行を行ない、来館者層の拡大やサービスの向上に繋がります。また春休み・ゴールデンウィーク・夏休み等の来館の多い時期には、定休館日である月曜日も

開館とする等、利便性を向上させ入館者増を図ります。

(7) 広報活動

館の存在をより多くの方に知っていただくことで、活動の活性化と入館者増に結びつけるため、パブリシティを中心とした効果的な広報を計画し実行します。

- ①ウェブページを活用した展示館及び大型映像館に係る案内及び情報発信に加え、特別展の開催情報や教育普及活動の開催案内など、常に最新の情報を的確に発信します。また、新しいメディアの活用を試み、有効な広報リソースの拡大を検討します。
- ②県政・市政記者クラブを通じたプレスリリースを行うほか、埼玉県発行による「彩の国だより」、所沢市発行による「翔びたつひろば」ならびに主要新聞、雑誌に積極的広報を行います。
- ④埼玉県内及び関東地方の主要な博物館、市内の小・中学校や公民館、図書館等の公共施設にポスター及びチラシの配布を行います。
- ⑤公園利用者への周知を高めることを目的として、展示館・大型映像館・特別展の案内情報を園内各所に掲出すると共に館前面にものぼり旗等の特殊サインを掲出します。

(8) 普及啓発活動

①飛行機工作教室、公開講座の実施

航空に関する知識や情報を広く伝えることを目的として飛行機工作教室、公開講座等を実施します。

②友の会「キッズ・チャレンジ倶楽部」の実施

「科学する心」を育て、「創る喜び」を体験してもらうことを目的に、小学3年～6年生対象の一年制の会員制組織を運営し、航空に係る科学と技術を中心に工作教室・実験教室・自然観察教室・航空関連施設見学会等の各種行事を実施します。

③ワークショップコーナーの多目的活用

体験と遊びを通して学びに繋げる館内の常設コーナーである「ワークショップ」のコンテンツ拡充を図り展示との相乗効果を図ります。また、新たな実験演示メニューの開発等、青少年をはじめとする来館者の知的好奇心を刺激し、航空だけでなく科学・技術への興味関心を醸成します。

(9) ボランティア活動の充実

館運営に対するボランティアの活動の場として、飛行機工作教室、航空機の保守・メンテナンス、YS-11・格納庫の特別公開、常設展示の解説や展示解説ツアーの実施、近隣小学校等へのアウトリーチ活動等の実施における協力及び支援の機会を設けることで、航空知識の豊富なボランティアにより館事業の質的向上及び目的の深化充実を図ります。

(10) スーベニアショップ・レストランの運営

館の附帯施設であり指定管理業務における自主事業であるスーベニアショップ及びカフェレストランの事業活性化を目論み、事業契約先との情報・意見の積極的な交換を行い、相互連携による活動充実を実現することで、来館者に対する相乗的なサービスの向上を図ります。

(11) その他の活動

- ①開館以来 25 年を経過し老朽化や情報の更新等が課題となってくる常設展示及び館施設の魅力向上を実現するため、埼玉県と情報や事業趣旨の共有を密に進め、相互連携のもとにリニューアル計画の方向性と柱となる館事業の中・長期計画の策定に努めます。
- ②埼玉県による「施設の長寿命化計画」を協働して推進します。
- ③共同企業体間の連携をより活性化することで、公園利用者への更なるサービス向上を図るため、所沢航空記念公園を利用したイベントの共同開催を計画実施します。

2. 青森県立三沢航空科学館の運営（青森県委託事業）

青森県立三沢航空科学館は、世界初の太平洋無着陸横断飛行の離陸地となるなど航空史と縁の深い三沢の地に在る大規模な航空科学館です。当財団は創設計画からこの航空科学館に関わり、三沢市ゆかりのミス・ビードル号をはじめ航研機などの復元機の展示製作を行いました。2006 年度より導入された指定管理者制度に対応し、特定非営利活動法人テイクオフみさわ、育栄管財株式会社、株式会社乃村工芸社と J V を構成して同館の運営を行っています。当財団は主に以下の事業を担当しています。

(1) 展示物の点検・補修・改善

展示装置の異常や故障などを未然に防止し、正常な稼動と安全運用を確保するため、年 4 回保守点検業務を実施します。

(2) イベントの開催等

科学に関するテーマの特別展を企画し、夏休み期間に三沢航空科学館で開催します。

Ⅲ. 他館に対する活動支援事業（102 百万円）

科学技術館の運営経験を基に、科学館、博物館等の教育文化施設に対して、それら施設の新規設置や更新、あるいは新たな「活動づくり」にあたってのコンセプト作りなどの支援を総合的に行います。

1. プレアデス事業による教育文化施設に対する企画・開発・保守支援

(1) 新規設置

- ①特殊映像システムの受注を目指します。
- ②地方公共団体及び民間企業のデジタルドームシアターの設置に関わる業務受注を目指します。
- ③既存施設の機器更新の提案と受注を目指します。

(2) 保守、運営支援

- ①日立シビックセンター「天球劇場」保守点検業務（公益財団法人 日立文化情報財団委託事業）
- ②山梨県立科学館プラネタリウム保守点検業務（公益財団法人 山梨県青少年協会委託事業）
- ③プラネタリウムシステムソフトウェア保守業務（川崎市および平塚市委託事業）
- ④岡三証券神楽洞夢保守点検業務（株式会社岡三証券グループ委託事業）

⑤サイエンスヒルズこまつ3Dスタジオ保守点検業務（小松市委託事業）

2. 教育文化施設に対する企画・開発・保守支援

(1) 企画開発業務

地方公共団体等が設置する科学館等の教育文化施設に関わる企画開発業務の受注を目指します。

(2) 運営保守業務

地方公共団体等が設置する科学館等の教育文化施設に関わる運営保守業務（指定管理者、PFI）の受注を目指します。

IV. 科学技術系人材の育成事業（157百万円）

科学技術体験イベント、科学オリンピックなど、科学技術への興味関心を引き起こすレベルから専門家を目指すレベルまで、広範な活動を通して科学技術系人材の育成事業を推進します。

1. 科学技術体験イベントの開催

(1) 「青少年のための科学の祭典」の開催

①青少年のための科学の祭典全国大会

産業・学術との連携を強化し、企業・団体のCSR活動とした出展や、日本学生科学賞との連携により全国レベルの中学校・高等学校の研究発表を実施することで、幅広い年齢層の来場者の科学技術に対する興味関心を高める全国大会を目指します。また、近隣の大学生や高校生の出展補助スタッフとしてのボランティアを募り、教えることの経験を通じた教育的効果を高めます。

会期：2019年7月27日（土）～7月28日（日）（予定）

②青少年のための科学の祭典自主大会

日本全国の市町村において、各開催地の大会実行委員会と当財団とが共催する約80の大会を予定しており、全国で開催される「青少年のための科学の祭典」とのネットワークを強化します。

(2) 少年少女創造性育成事業業務（公益財団法人市村清新技術財団委託事業）

小中学生を対象とし、複写機を題材としてその原理と分解を行うワークショップを2回、市村アアイデア賞受賞者を対象とした表彰式、入選作品展および科学教室を1回開催します。

(3) STEM教育プログラムの実施（ボーイング社助成事業）

小中学生を対象として、科学、技術、工学、数学の各分野を横断的に学ぶことができるSTEM（Science, Technology, Engineering and Mathematics）プログラムイベント・ワークショップを実施します。

2. 科学オリンピック国内大会・国際大会

(1) 日本生物学オリンピック2019の開催、第30回国際生物学オリンピックへの日本代表派遣

(国立研究開発法人 科学技術振興機構支援事業)

日本生物学オリンピックは、大学等高等教育機関就学前の青少年を対象として、生物学への関心が高く才能ある生徒に国際的なコンテストへの挑戦の機会を提供してその才能を伸ばし、将来のわが国の科学技術を支える人財の育成を図るとともに、広く一般に生物学・生物学教育に対して興味と関心を持ってもらう活動です。国内大会「日本生物学オリンピック 2019」は、全国規模（115会場予定）で7月に実施する予選に続き、長崎国際大学の協力を得て8月に同大学で本選を開催します。

①「日本生物学オリンピック 2019」の開催

成績優秀者から、2020年に日本の長崎で開催される第31回国際生物学オリンピック日本代表4名を選抜します。

②第29回国際生物学オリンピックへの日本代表派遣

2018年に開催された日本生物学オリンピックから選抜された日本代表4名を7月にハンガリーで開催される第31回国際生物学オリンピックに派遣します。

(2) 第31回国際生物学オリンピック開催準備

2020年に日本の長崎で開催を予定している第31回国際生物学オリンピックについて、事務局の一部を担います。

3. 教員のための理科実験指導育成講座開催

(1) 教員のための理科実験スキルアップ講座の開催

(公益財団法人 東京応化科学技術振興財団助成事業（予定）)

豊富な経験と確かな理論的裏打ちや、細やかな実験演示のテクニックを有する「青少年のための科学の祭典」全国大会の実行委員の先生方が講師役を務め、授業や社会教育活動でも役立つ実践的な理科実験の講習会を、主に小中学校の教員を対象として、物理・化学・生物・地学の分野毎に開催します。

V. 科学技術の普及啓発事業（101百万円）

優れた科学技術映像を選奨するコンクールと優秀作品のテレビ放映や全国の科学館での巡回上映を行い、映像を通じた科学技術の普及啓発事業を推進します。また、放射線等に関する理解増進活動等を推進し、環境やエネルギーに係る科学技術の普及啓発を図ります。

1. 科学技術映像祭の開催と優秀作品の上映

(1) 第60回科学技術映像祭の開催

科学技術週間に合わせ、入選作品発表会として科学技術館サイエンスホールにおいて、内閣総理

大臣賞、文部科学大臣賞をはじめ、各賞表彰式と入選作品上映会を開催します。また、科学技術映像の普及啓発のため、入選作品の上映会を全国の科学館で実施します。

2. 放射線・エネルギー等に関する理解増進活動

(1) 放射線・エネルギー等に関する理解促進事業

小・中・高等学校等の児童生徒、教育職員を対象に、放射線やエネルギー等に関する正しい知識の普及と理解促進を図っていきます。

- ①放射線教育を行う教育職員に対して放射線教育授業実践事例、指導案、放射線に関する資料等を提供する情報提供事業
- ②学校教育における放射線に関する教職員等を対象としたセミナー及び児童生徒等を対象とした出前授業を実施する事業（文部科学省委託事業（予定）等）
- ③「青少年のための科学の祭典」でのエネルギー・放射線教室
- ④放射線について児童生徒が学ぶための教材コンテスト事業

VI. 科学技術の振興に関する調査研究事業（0百万円）

来館者の意識や動向を把握するために科学技術館来館者調査、展示や教育、運営に関する調査を行います。調査結果は現場で活用するとともに、可能な限り科学教育学会、ミュージアムマネジメント学会等で発表します。

VII. 科学技術の研究開発とその促進事業（0百万円）

2019年度事業計画策定時点では、当部門で計画・実施予定の事業はありません。

VIII. 情報システムの設計開発と運用サービス事業（360百万円）

データベース技術、ネットワーク技術、解析・シミュレーション技術、インターネット技術などを基に、官公庁および関連機関をはじめとして、民間企業や通信教育団体等から、情報システムの設計開発業務や運用サービス業務を受託し、財政基盤の安定化を図ります。

また、重要な経営資源である情報資産を安全かつ安定的に利用できるよう情報セキュリティ対策、BCP対策に取り組みます。

1. 情報システムの設計開発

(1) データベース技術やネットワーク技術を応用した情報システムの設計開発

データベース検索システム、教育機関や官公庁等における業務処理システム、通信教育支援システムなど、データベースやネットワークに係る情報システムの設計および開発・保守業務を受託し、実施します。

(2) 設計製造、製品管理関連ソフトウェアの設計開発

製造業関連の民間企業を中心に、PLM システム、生産シミュレーションシステムなど、生産管理に係る情報システムの設計および開発業務を受託し、実施します。

(3) マルチメディア・データベースシステムおよびインターネット関連システムの設計開発

博物館や文化施設向けにマルチメディア展示システム、ネットショップをはじめとする Web 関連システムなど、展示やインターネットに係る情報システムの設計および開発・サポート業務を受託し、実施します。

(4) 解析・シミュレーション等の技術による新エネルギー関連システムの設計開発

太陽光発電システム、電力供給関連シミュレーションシステムなど、電力エネルギーに係る情報システムの設計および開発業務を受託し、実施します。

(5) その他

官公庁および関連機関や民間企業の Web による情報発信業務等の設計および開発・サポート業務を受託し、実施します。

2. 情報システムの運用サービス

官公庁および関連機関、通信教育団体等を中心に、インターネットを活用した情報処理システム等の運用サービス業務を受託し、実施します。

あわせて、情報セキュリティ対策、BCP対策を強化します。

IX. 科学技術館施設の利用促進事業 (480百万円)

科学技術館は公共性の高い施設のため、入館者の安全確保、施設整備等の対策強化に努めます。また、科学技術館諸施設の有効利用を図るため、催事場・サイエンスホール等の利用促進に努めます。

1. 建物および建築設備の維持管理

入館者が安全かつ快適な環境の中で見学・利用できるよう、建物の安全・衛生等の環境整備に努めます。

2. 館施設の活用

催事場、サイエンスホール、会議室を、科学技術の普及・交流等の場として提供するとともに、各種団体の利用促進に努め、財政基盤の安定化を図ります。あわせて、レストラン、ミュージアムショップ、

スタジオ等関連する施設の運営委託を行います。

X. 補助を得て実施する事業（予定）

2019年度は、公益財団法人JKAから競輪の補助金の交付を受けて、次の事業を実施します。なお、本年4月の自転車等機械振興事業の採択および補助金の交付内定通知に伴い、事業内容および申請額（予算）に変更が生じた場合は、本年6月の理事会において再度議案として諮る予定です。

1. 公益財団法人 JKA 競輪補助事業（自転車等機械振興事業）

(1) 「科学・技術の研究開発成果の可視化による理解増進及び可視化・表現技術の教育IT技術としての開拓」補助事業

①申請額

補助金	11,161千円
自己資金	2,791千円
<hr/>	
事業費総額	13,952千円

②事業概要

「サイエンスビジュアライゼーション」（可視化技術）により得られた企業等の研究開発成果の可視化データを、「デジタル映像プレゼンテーション技術」（表現技術）を活用して投影し、「教育IT技術」の手法として開拓します。科学技術館において特別展を開催し、その実践事例を示します

XI. 助成を得て実施する事業（予定）

2019年度は、一般財団法人日本宝くじ協会、公益財団法人日本財団、独立行政法人国立青少年教育振興機構、公益財団法人東京応化科学技術振興財団および公益財団法人東京観光財より助成金の交付を受けて、次の事業を実施します。なお、本年4月の各助成事業の採択および助成金の交付内定通知に伴い、事業内容および申請額（予算）に変更が生じた場合は、本年6月の理事会において再度議案として諮る予定です。

1. 一般財団法人 日本宝くじ協会 宝くじの社会貢献広報事業

(1) 最新リアルCGによる近未来移動体操縦体験装置整備

①申請額

助成金	40,000千円
自己資金	1,500千円
<hr/>	
事業費総額	41,500千円

②事業概要

未来を担う青少年やその保護者を含む一般国民を対象に、人間の生活をこれまで以上に大きく変える可能性のある Connected Car 社会に興味関心を持ってもらうために、近未来の移動体を操縦体験することのできる装置を製作し、館内で入館者の目に触れやすい場所に設置します。

2. 公益財団法人 日本財団助成事業

(1) 「光」を総合的に学習する巡回型展示物の制作その2

①申請額

助成金	7,760 千円
自己資金	1,940 千円
<hr/>	
事業費総額	9,700 千円

②事業概要

“「光」を総合的に学習する”というコンセプトのもとに、光を使った面白いと思わせる展示を制作し、面白いという観点から光について学習できるような展示物を、約13点ほど制作します。

光に関する関心や理解増進と科学技術分野への人材育成の波及を目指します。2019年度に助成を受けて制作した展示物も加え、2020年春にミニ特別展を開催します。

3. 独立行政法人 国立青少年教育振興機構 子どもゆめ基金

(1) 青少年のための科学の祭典2019全国大会

①申請額

助成金	6,000 千円
自己負担	4,793 千円
<hr/>	
事業費総額	10,793 千円

②事業概要

参加体験を基本コンセプトとして子どもから大人までが観て学び楽しむことができる様々な実験・実演ブースを全国から参集し、開催します。本事業では、子どもたちが科学の「楽しさ・面白さ」に触れ実体験できる場（きっかけ）を通じて、子どもたち同士が交流できる活動を展開します。

4. 公益財団法人 東京応化科学技術振興財団 科学教育の普及・啓発助成事業

(1) 教員のための理科実験スキルアップ講座～ベテラン教師による実践的理科実験極意の伝授～

①申請額

助成金	300 千円
自己負担、参加費	552 千円
<hr/>	
事業費総額	852 千円

②事業概要

小学校・中学校の教員を対象とした理科（物理・化学・生物・地学）に関する講座を年４回（８講座）開催し、授業で役立つ実践的な手法や理科実験を盛り込んだプログラムを実施します。

(注)上記の内容は申請時点のものです。